

# 折り重なる記憶











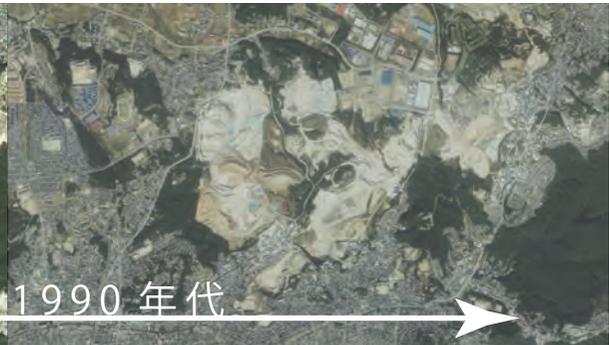
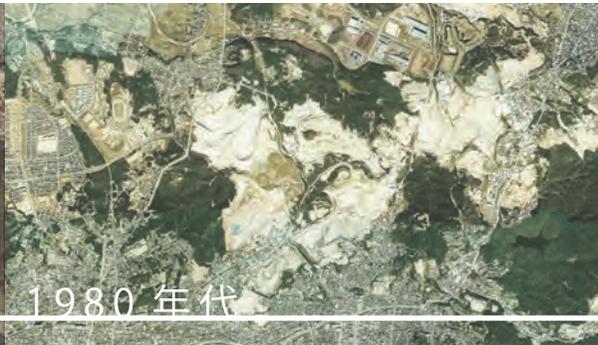
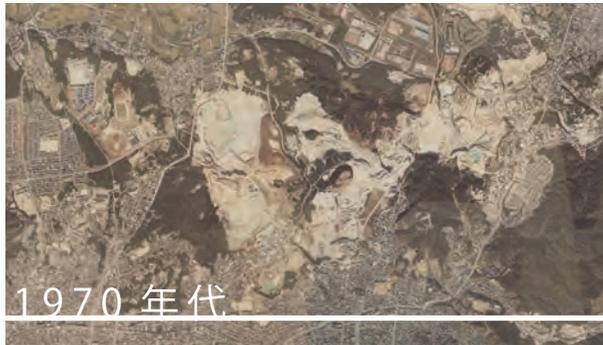
# Site

：愛知県瀬戸市に広がる採土場 瀬戸市の焼き物文化を支える「瀬戸キャニオン」



# Site

：愛知県瀬戸市に広がる採土場 瀬戸市の焼き物文化を支える「瀬戸キャニオン」



異なる時間軸を持つ

地球の表層  
空間の在り様  
生き物の営み

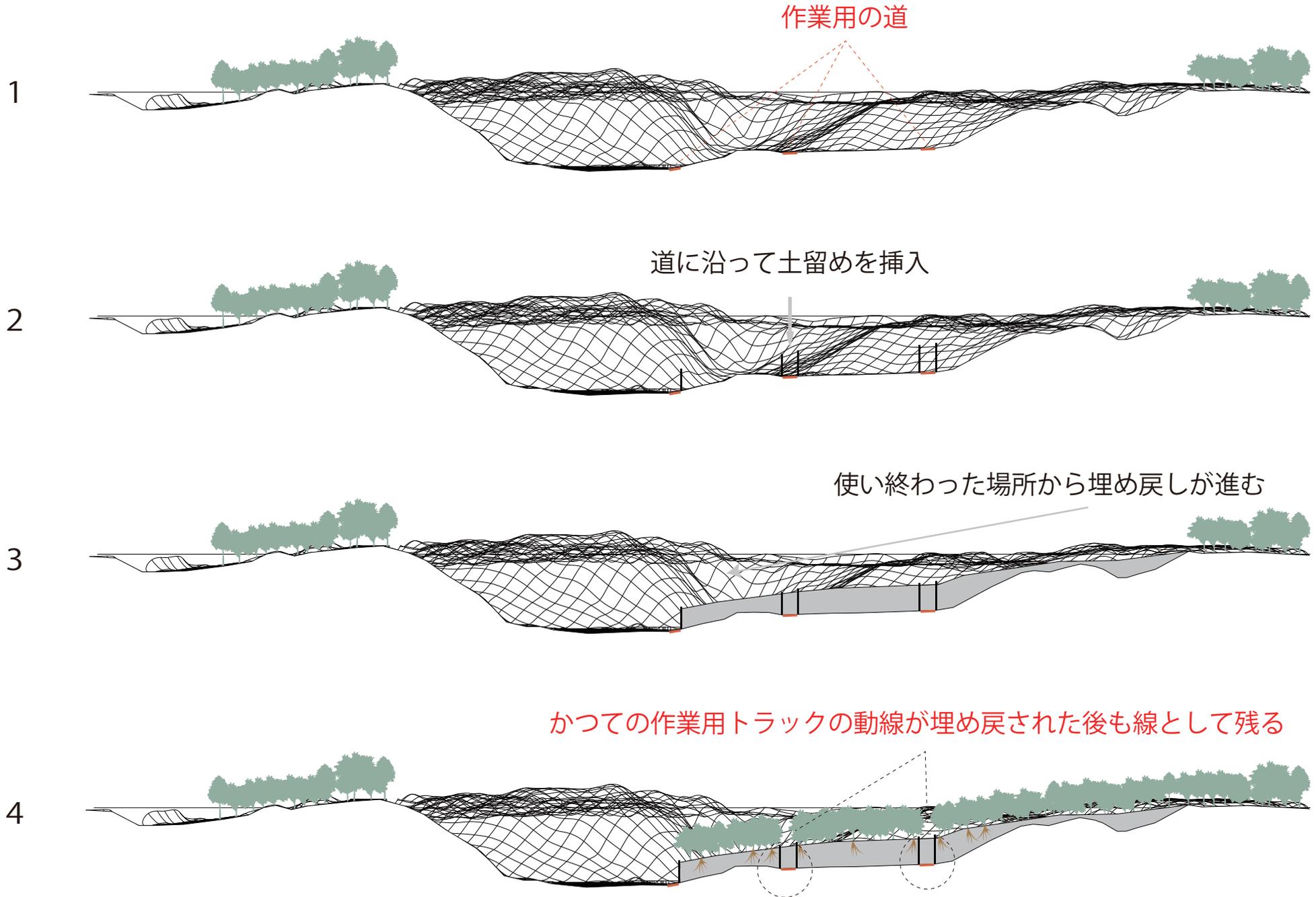
のあいだの交わりを創造する

# Method

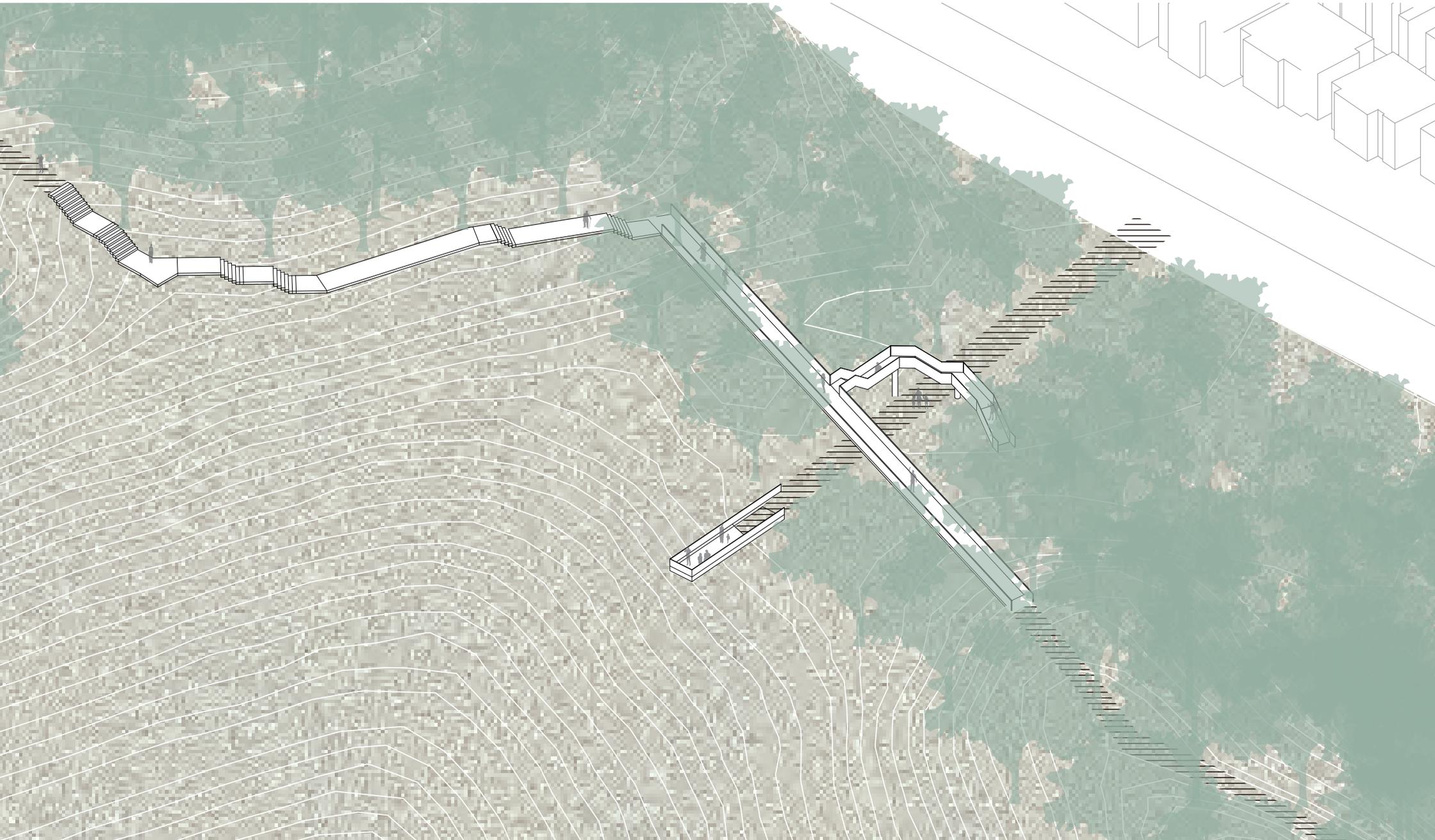
：現状の採土場を縁取るようにプロムナードを設け、  
変化していく地形との関係性のなかで空間や人 - 自然の多様な交わり方を創出する。



**Method** : 使い終わった採土場を還していく、埋め戻しの風景をデザインする。

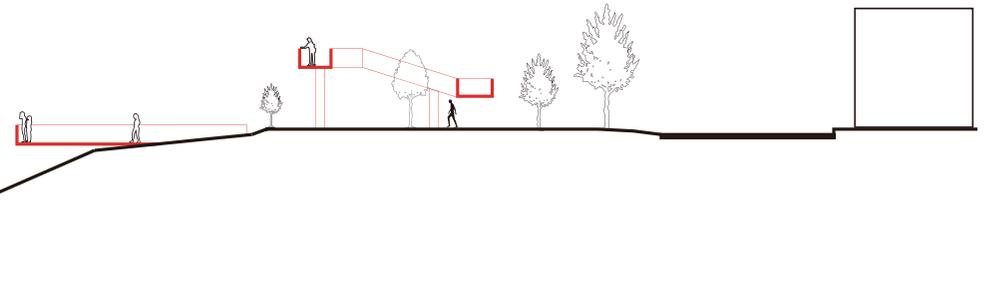


# 谷地の栈橋

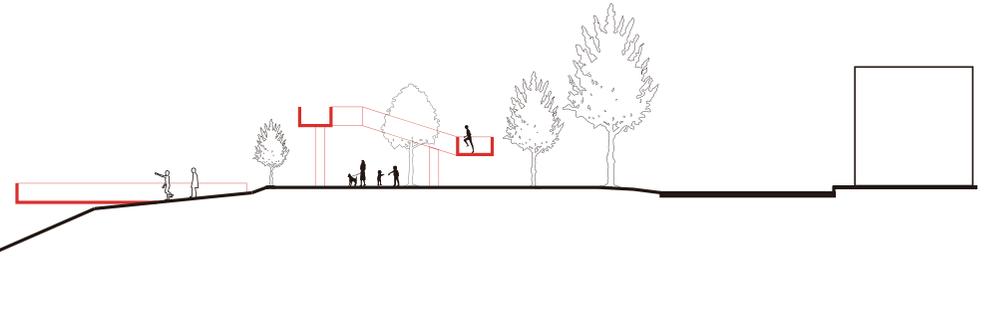




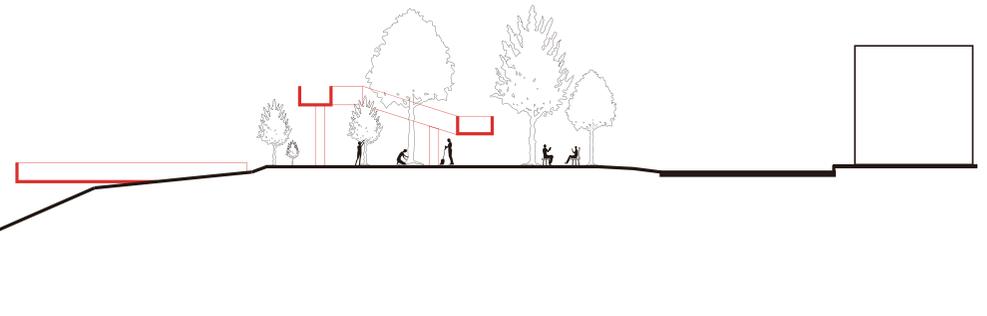
Present 橋と階段で小さな囲われた空間をつくる



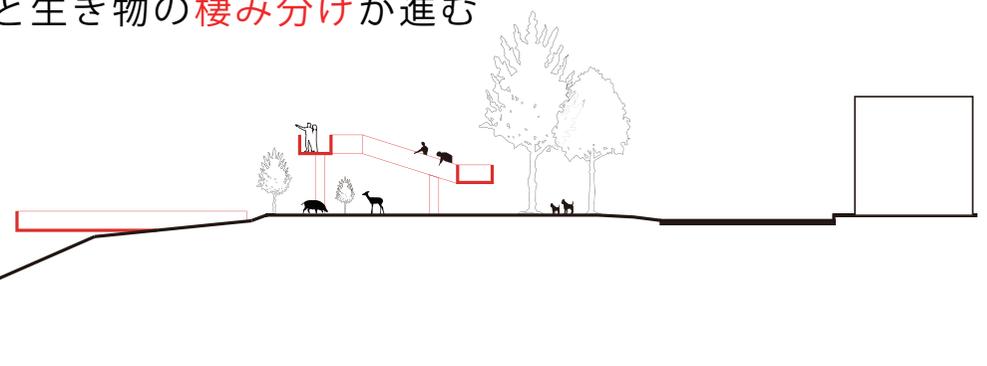
Phase3 日常的に利用される場所となる



Phase7 住民が自分の居場所を見つける

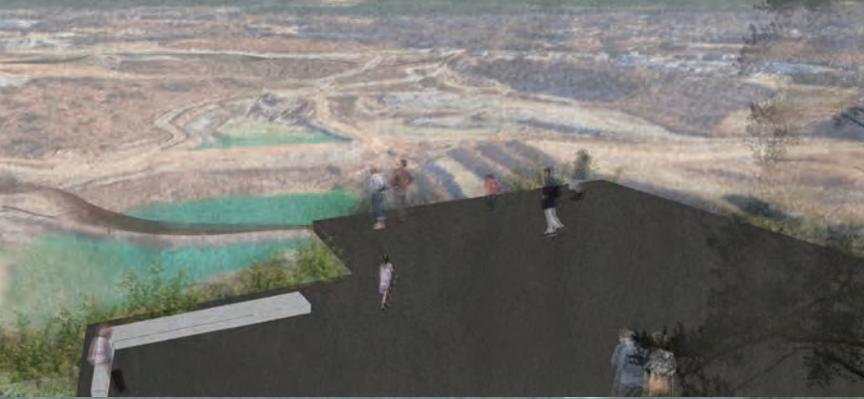


Future 人と生き物の棲み分けが進む

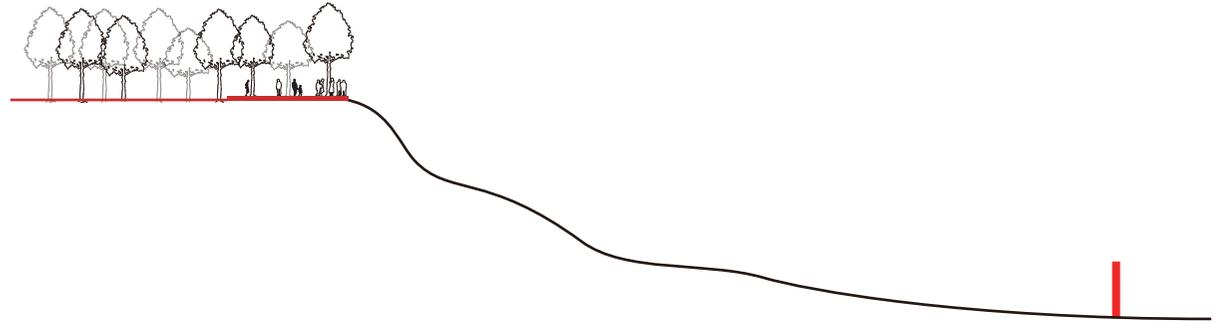


# 展望広場

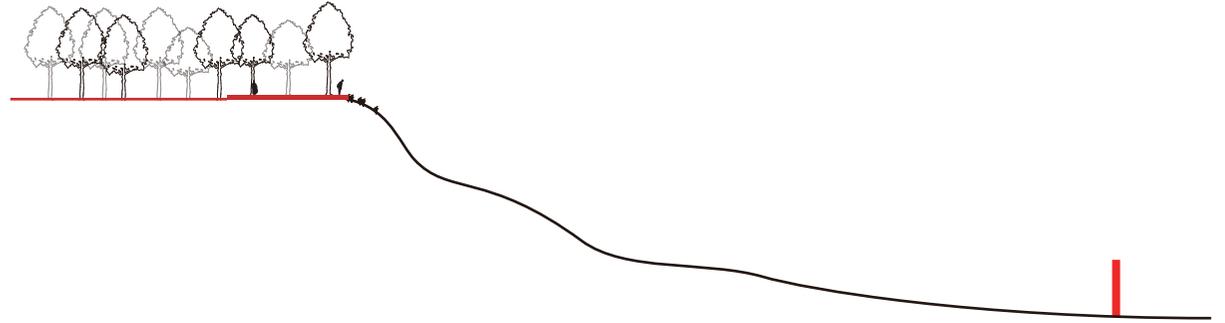




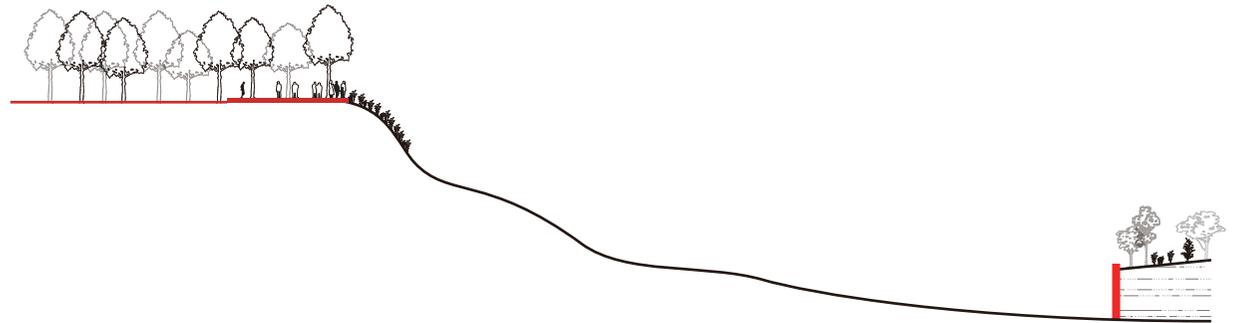
Present 採土場を一望できる視点場



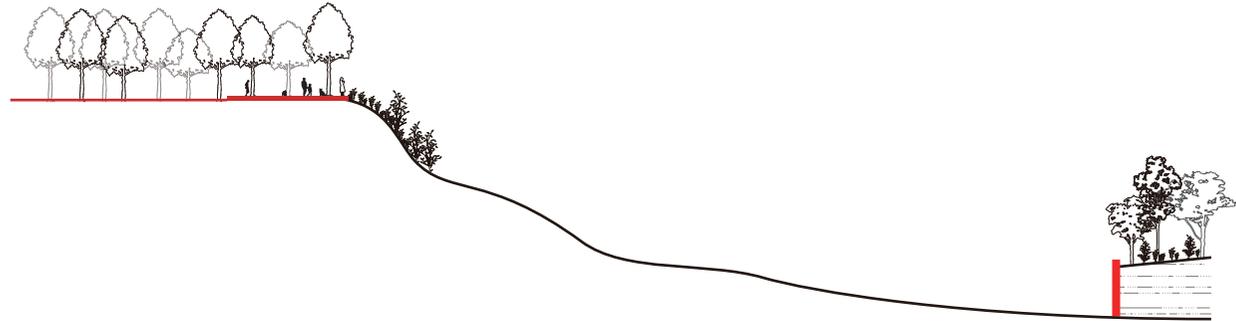
Phase3 埋め立てが進み、地形の変化を感じる



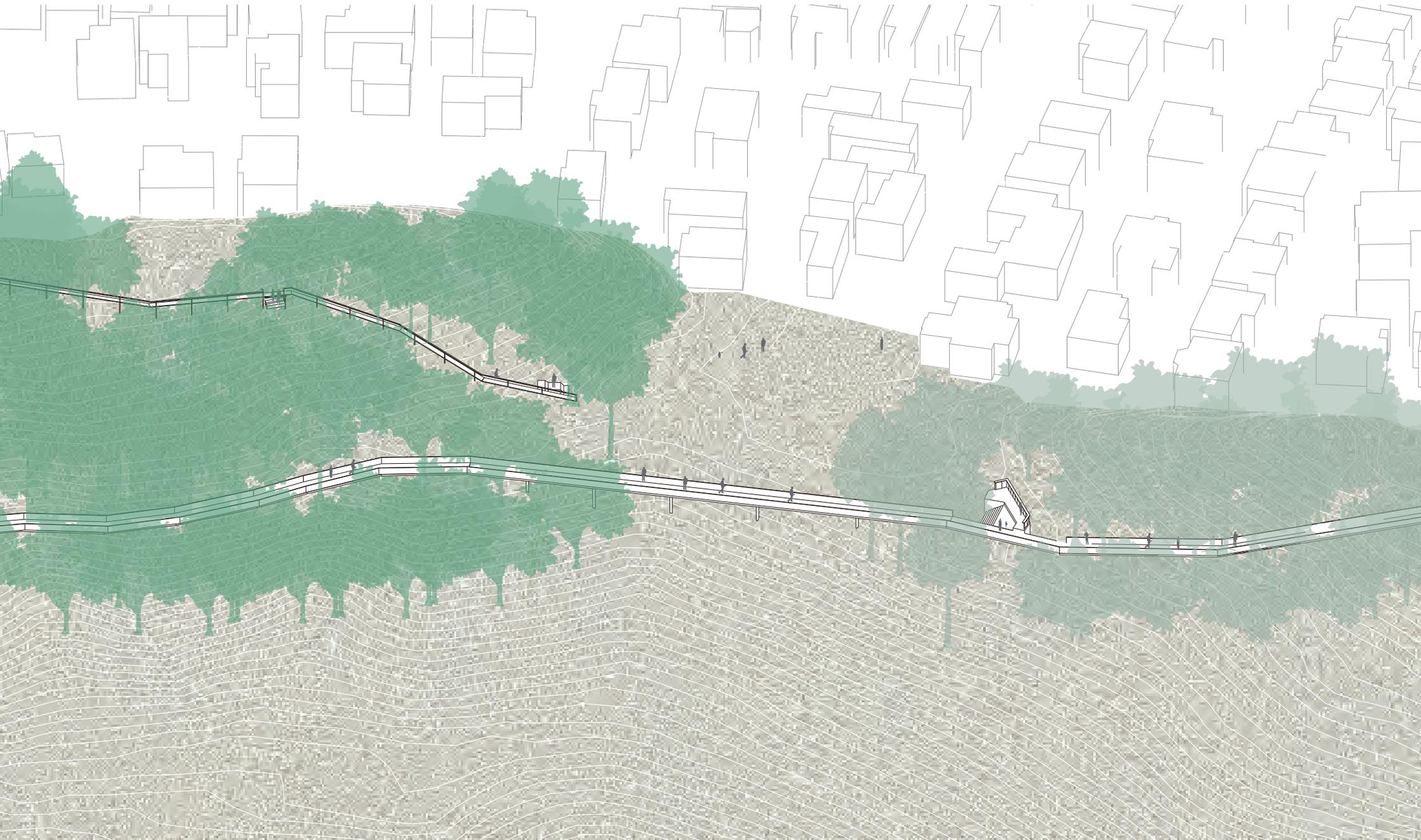
Phase7 埋め立てが終わり、植物が芽を出す



Future 自然に還り、来訪者の意識が更新される

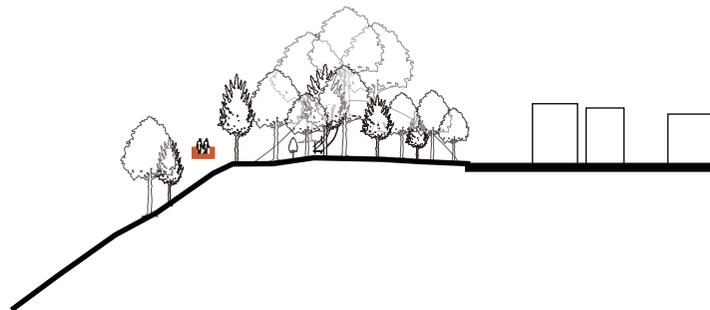


# まちの散歩道

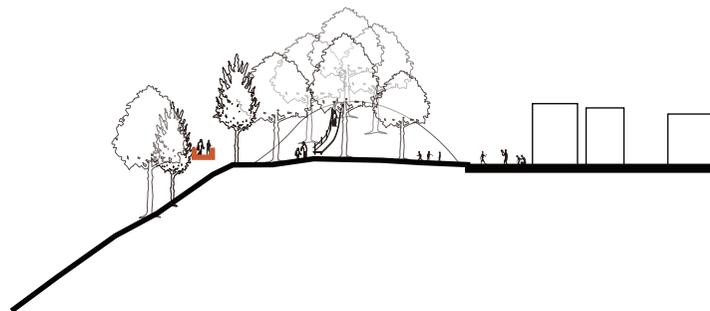




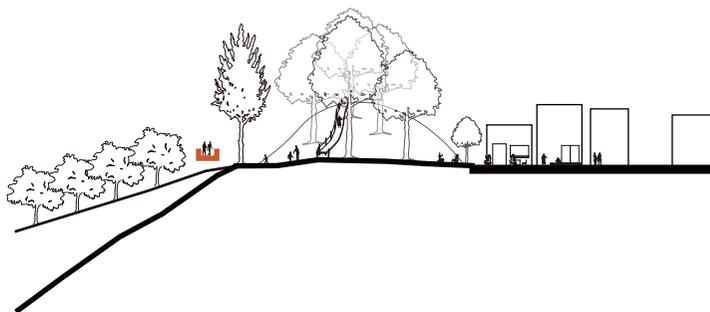
Present まちから採土場への接点をつくる



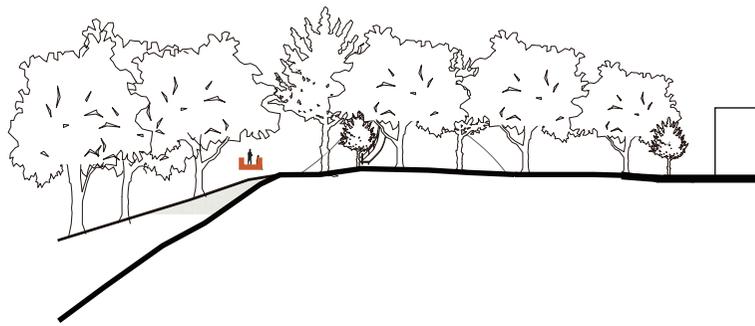
Phase2 住民の日常の居場所となる



Phase5 まちが採土場に意識を向け始める



Future 採土場の境界がまち側に侵入する



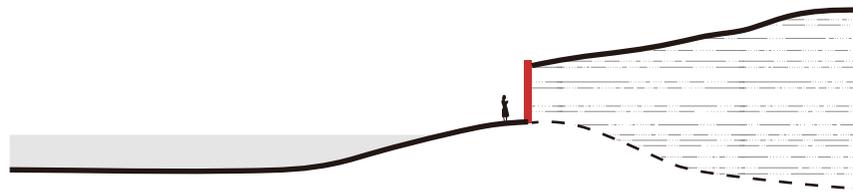
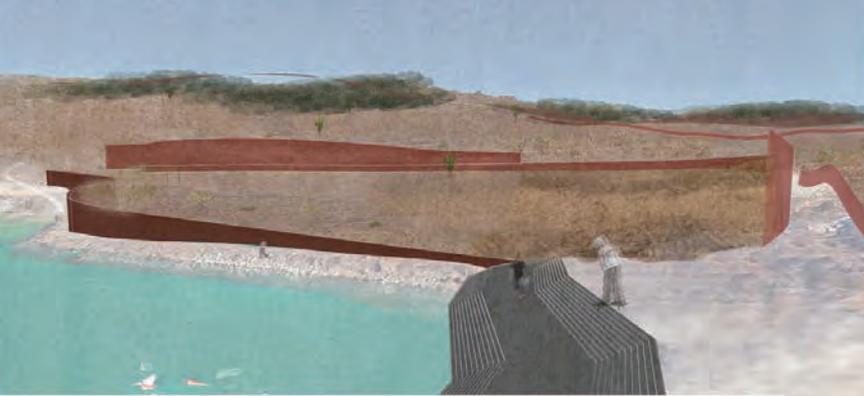
# 記憶の壁



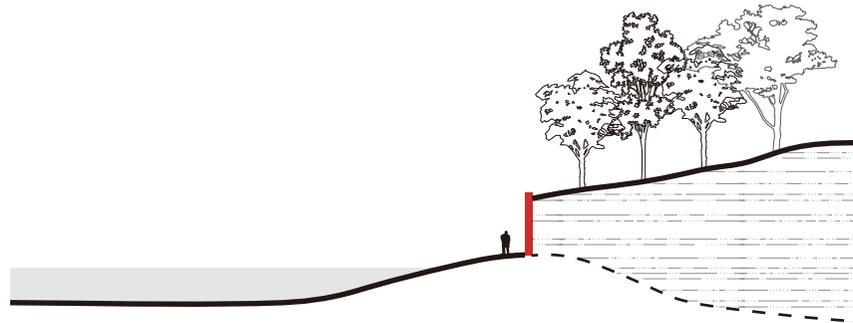
Present 保存と変化の境界を強調する壁



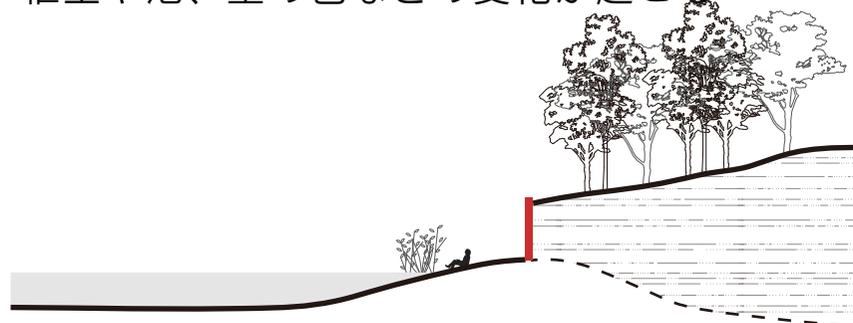
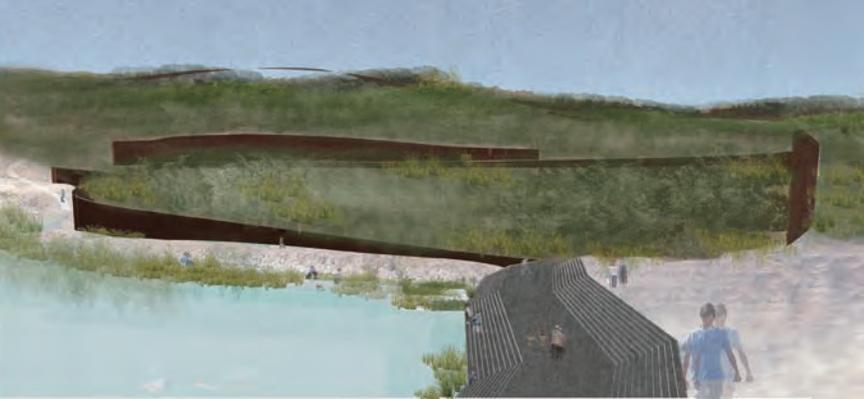
Phase4 埋め戻しの土が境界に迫ってくる



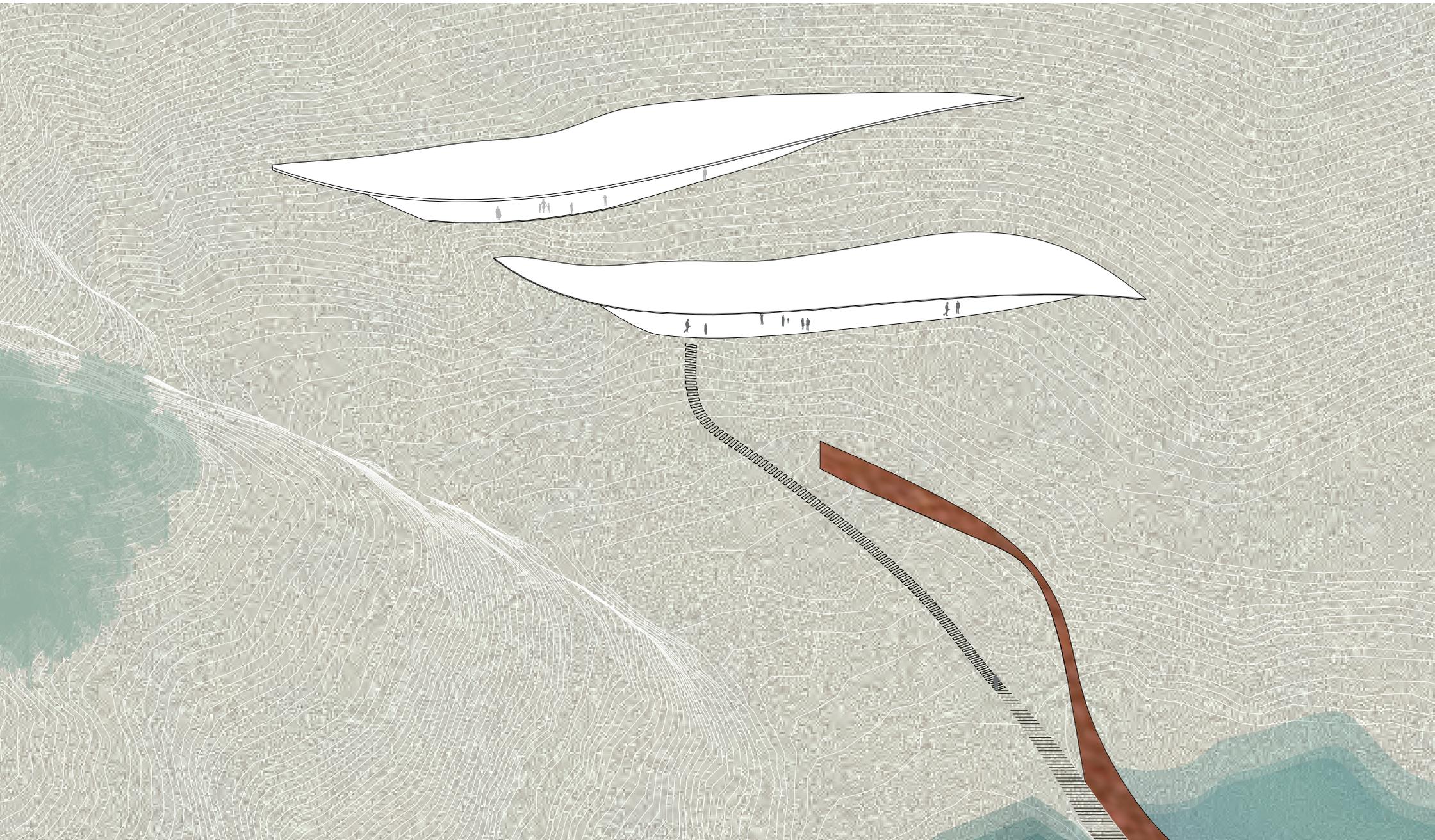
Phase7 壁の奥側が自然へと還っていく



Future 植生や池、壁の色などの変化が起こる

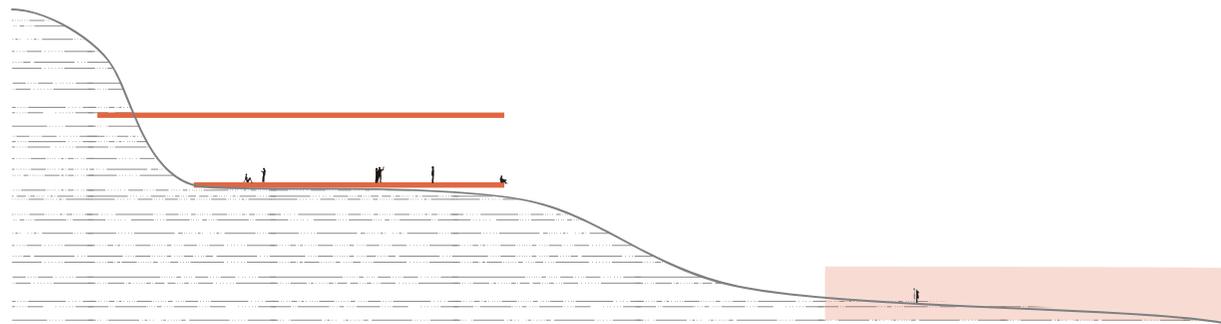


# 埋もれていく休憩所

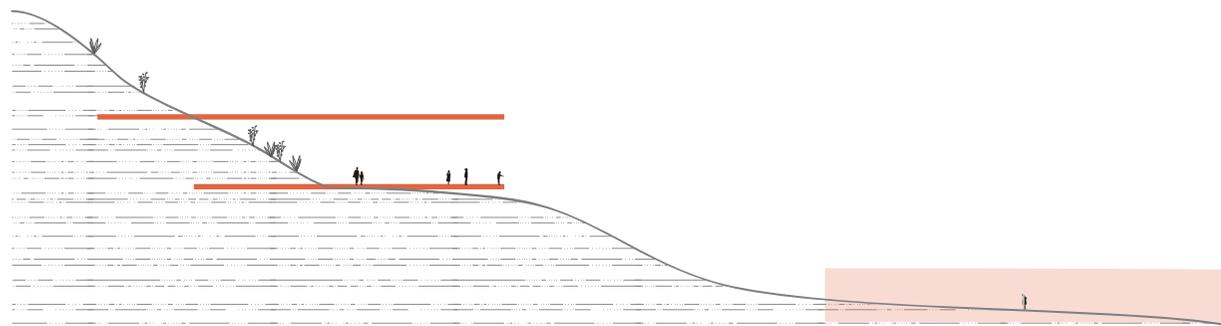




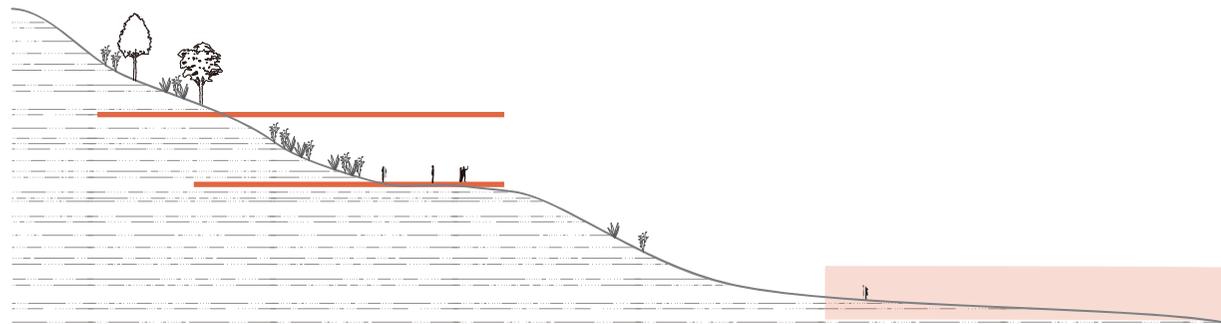
Present 境界の壁が象徴的に見える



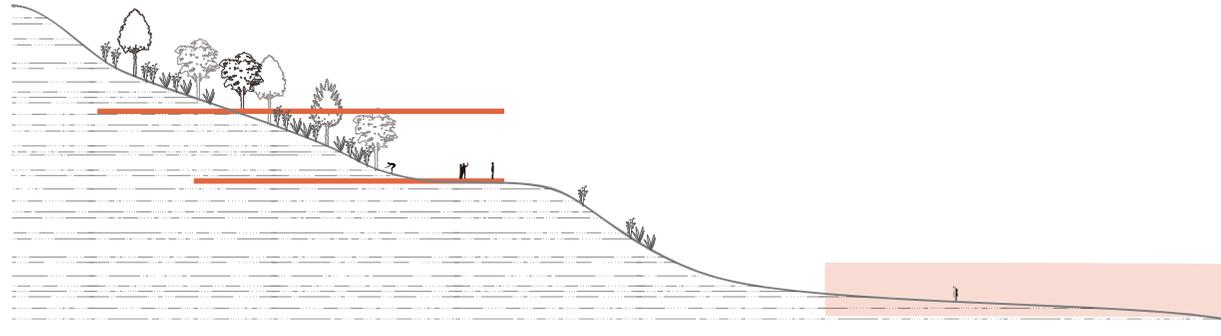
Phase4 埋め戻しが進み、休憩所の一部が埋もれる



Phase7 埋め戻された土から植物が芽を出す

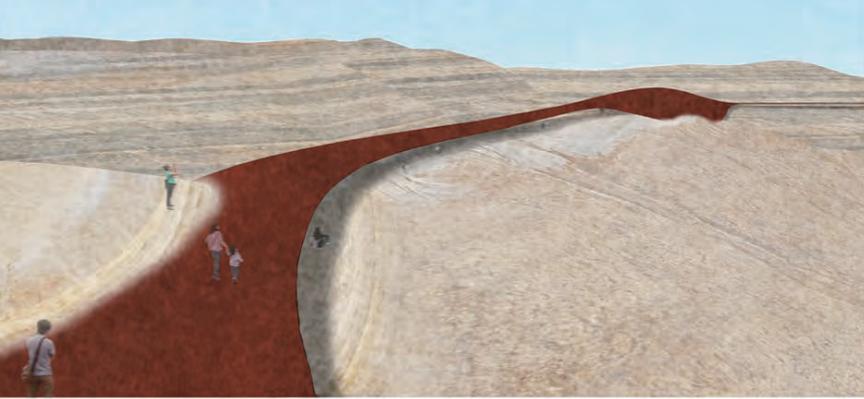


Future 土留めを境に異なる植生を見ることができる

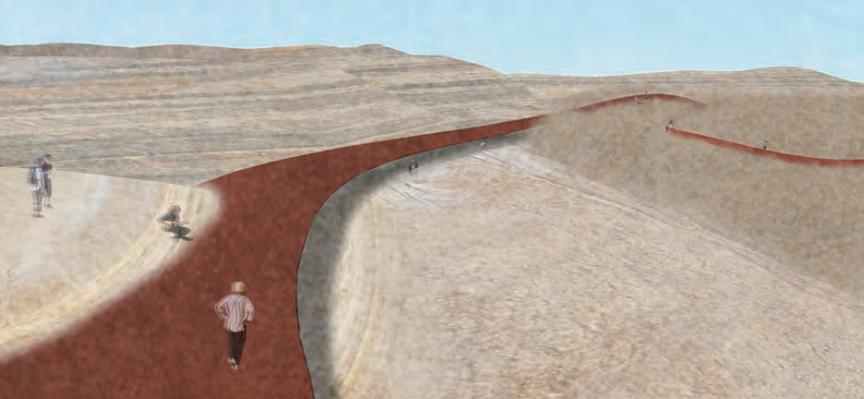


# 地形を記憶する屋根

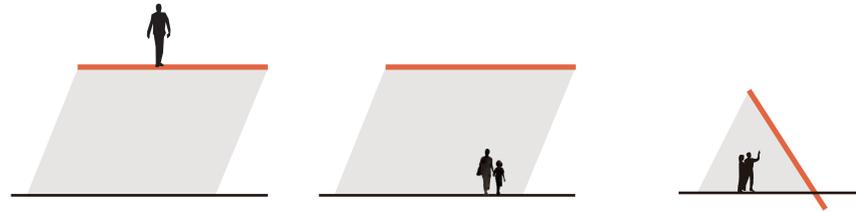




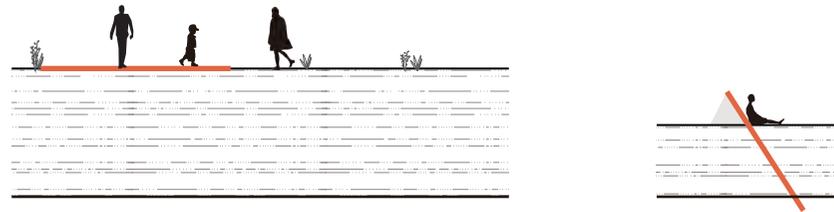
Present 地形に沿って柔らかくかかる屋根



Phase1 埋もれることで屋根との距離感が変わる



Phase2 屋根が埋もれ、道の舗装となる



Future 屋根のエッジが消え、地形の一部となる





人間の営みの履歴も生態系の循環の一部である

埋め戻しのプロセス

+

人の介入できる空間

||

異なる時間軸を持つ

地球の表層 / 空間の有り様 / 生き物の営み

のあいだの交わりを創造する

